



2019年5月17日

SOMPOホールディングス株式会社

## 認知症に関する研究の第一人者・カロリンスカ研究所 キビペルト教授 とのアドバイザー契約締結

SOMPOホールディングス株式会社（グループCEO取締役社長：櫻田 謙悟、以下「SOMPOホールディングス」）は、「お客さまの安心・安全・健康に資するサービスをご提供し、社会に貢献する」という経営理念の実現に向け、認知症に関する社会的課題に注目し、「認知症にならない・なってもその人らしく生きられる社会」を目指す「SOMPO認知症サポートプログラム」を展開しています。

このたび、その取組みの一環として、認知機能低下の予防に資する高齢者の生活習慣への介入研究分野における第一人者であるカロリンスカ研究所<sup>※1</sup>のミーア・キビペルト教授とアドバイザー契約を締結しました。

※1 カロリンスカ研究所は、ノーベル生理学・医学賞の選考委員会がある世界最大の医学系教育研究機関です。

### 1. 背景

急速な高齢化の進展に伴い、医療費・介護費などの社会保障費用の増大、MCI（軽度認知障害）・認知症高齢者の増加、介護職の不足などの問題が顕在化しています。

SOMPOホールディングスグループは、認知症に関する社会的課題をグループ全体で解決するべき重要な課題ととらえ、2017年9月に包括連携協定を締結した「国立研究開発法人国立長寿医療研究センター」からのアドバイス等を活かし、2018年10月から「SOMPO認知症サポートプログラム」をグループ横断で展開しています。プログラムの展開にあたっては、日本最大の認知症当事者団体である「認知症の人と家族の会」からのアドバイス、介護スタッフなどの生の声に加え、世界の先端テクノロジーが集う「東京」「シリコンバレー」と「テルアビブ」の3拠点をベースとした最新情報やデジタル技術を活用してきました。

### 2. 目的

ミーア・キビペルト教授は、世界的にも有名な認知症予防にめざましい効果を示した、フィンランドの高齢者の生活習慣への介入研究「FINGER研究<sup>※2</sup>」を率いています。FINGER研究は、複数の介入を組み合わせることが軽度の認知機能障害の進行の抑制に有効であることを世界で初めて証明した研究であり、現在、同教授のリードのもと、世界各国への展開が進んでいます。SOMPOホールディングスは、「SOMPO認知症サポートプログラム」にキビペルト教授の知見を活かすことで、認知症に関する社会的課題の解決につながる認知機能低下防止に資する取組みを加速できると考え、このたびアドバイザー契約を締結しました。

※2 2009年から2011年にかけて、フィンランドで行われた「高齢者の生活習慣への介入による認知機能障害予防の研究」です。1,260名を対象に、食事指導・運動指導・認知トレーニング・生活スタイル指導の4つの介入を同時に行い、複数の介入を組み合わせることが、軽度の認知機能障害の進行の抑制に有効であることを、世界で初めて証明しました。

### 3. 主な取組み内容

SOMPOホールディングスは以下の分野を中心に、ミーア・キビペルト教授のアドバイスを活かした取組みを行っていきます。

- (1) FINGER研究やその他認知機能低下防止に資する研究に基づく商品・サービスの開発
- (2) 超高齢社会に向けた各種研究・プロジェクトへの参画
- (3) 上記を活かした各種商品・サービスの開発

#### 4. 今後について

上記取組みの第一弾として、ミーア・キビペルト教授が率いる、FINGER 研究を含む認知症関連の研究を通じて開発されたツールを「SOMPO認知症サポートプログラム」を通じて提供していきます。

SOMPOホールディングスグループは、国内のみならず海外の最先端の研究・知見を積極的に活用し、国内最大規模の保険事業および介護事業を展開するSOMPOホールディングスグループならではの総合力を活かして、認知症に関するソリューションの開発・提供に取り組んでいきます。そして、介護が必要な方にも、必要のない方にも、安心・安全・健康のサービスを提供し、社会的課題の解決をしていくことで、「世界に誇れる豊かな長寿国日本」の実現に貢献していきます。

以上

#### <アドバイザー契約調印式の様子>



(左) SOMPOホールディングス株式会社  
介護・ヘルスケア事業オーナー・執行役員  
笠井 聡

(右) カロリンスカ研究所  
ミーア・キビペルト教授